

日産車体株式会社 個人投資家向け会社説明資料



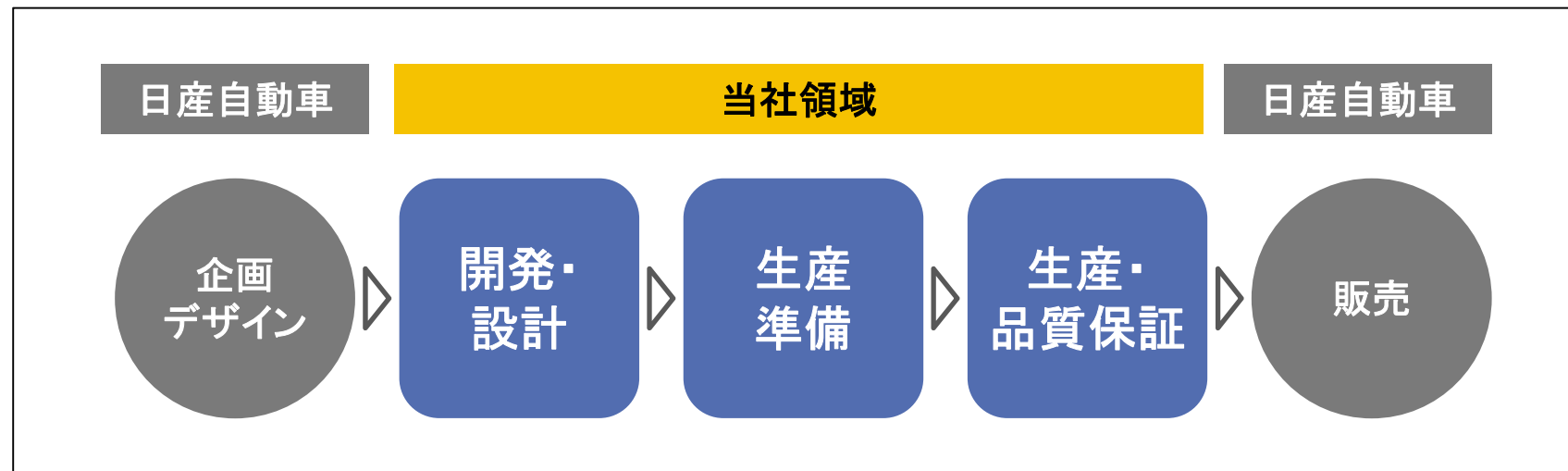
日本のモノづくりを世界へ

2017年5月

Outline



開発から生産までを担う完成車メーカーです



日産グループの中で「LCV・MPV」の分野を中心に、
グローバルに活躍する完成車メーカーとして事業を展開しています

LCV: Light Commercial Vehicleの略。小型商用車

MPV: Multi Purpose Vehicleの略。多目的乗用車という意味でミニバンやSUVの総称

グループのご紹介

日産車体グループ



湘南工場と日産車体九州の2つの生産拠点が主軸です

	日産車体(株)	日産車体九州(株)
設立	1949年	2007年
事業内容	各種自動車の開発から 品質保証まで	自動車および その部分品の製造・販売
従業員数	1,823名	1,106名
生産拠点	神奈川県平塚市	福岡県苅田町

(2017年3月31日現在)

湘南工場



日産車体九州工場



グループ会社

日産車体マニュファクチャリング株式会社

- ▶ 日産車体のプレス部品の製造

日産車体エンジニアリング株式会社

- ▶ 日産車体および日産車体九州の設備保全と物流



株式会社 オートワークス京都

- ▶ マイクロバスとトラックの製造と特装車の架装

日産車体コンピュータサービス株式会社

- ▶ 情報システム構築、ネットワーク構築などのIT関連サービス



株式会社 プロスタッフ

- ▶ 人材派遣から職業・人材紹介および各種アウトソーシング

グループのご紹介

沿革

2010年に日産車体九州の新工場が稼働開始。
2014年には湘南地区の再編を完了。

年 月	社 歴
2016年	10月、日産車体九州で日産の国内車両工場初の3班3交替体制での生産開始
2015年	1月、車両生産を終了した湘南工場第1地区の土地売却
2014年	3月、新本社を第2地区に竣工・湘南再編完了
2012年	湘南工場第1地区での車両生産を終了、湘南工場第4地区での車両生産を第2地区へ集約、湘南工場の車両生産体制の再編を完了
2011年	当社が開発した「NV200」がニューヨーク市の次世代タクシーに選定
2010年	日産車体九州稼働開始
2007年	子会社「日産車体九州株式会社」設立／生産累計1,500万台達成
1992年	生産累計1,000万台達成
1969年	フェアレディZ生産開始
1951年	日産自動車(株)と提携
1949年	当社前身 新日国工業(株)設立



▶ 高級ブランド「インフィニティ」を生産
(日産車体九州)



インフィニティ QX80

▶ LCVでグローバル展開をリード



NV200 NY市 タクシー提案モデル

▶ ミニバンで現在の基礎を構築



▶ 日産車体のルーツを作ったフェアレディZ



グループのご紹介

主な生産車



湘南工場



NV200
VANETTE
NV200 バネット



NV150
AD



WINGROAD
ウイングロード



NV200
NV200 タクシー



PATROL
パトロール:Y61



PATROL PICKUP
パトロール ピックアップ

日産車体九州



Infiniti QX80
インフィニティ QX80



PATROL
パトロール:Y62



ELGRAND
エルグランド



ARMADA
アルマーダ



QUEST
クエスト



NV350
CARAVAN
NV350 キャラバン

オートワークス京都



CIVILIAN
シビリアン



ATLAS
アトラスF24

グループのご紹介

特長



完成車メーカーとしてのDNAを活かした、 多くの特長を持っています

■LCVを中心とした多車種少量生産の一大拠点(湘南工場)



▶モノコック車



▶フレーム車

■2010年に稼動開始した日産グループの国内“最新鋭工場”
(日産車体九州)



▶ローラーヘミングによるエンジン
フードの生産



▶新塗装技術

■LCVで海外展開事業の基盤を強化



■グループ内での一貫生産により、
高品質な特別仕様車をスピーディに提供



2016年度 連結決算概況

2016年度 通期決算

2016年度までの主な成果



[1] QCT(品質・コスト・納期)総合力で世界のベンチマーク工場となる(日産車体九州)

- 九州新工場の稼働開始とともに年間4車種の新車連続立ち上げ
- インフィニティ工場の認定を取得、北米初期品質調査(JDP-IQS)でトップクラスを継続
- 日産の国内車両工場初の3班3交替での確実な生産運営

[2] 多車種少量生産車のフレキシブル生産拠点となる(湘南工場)

- 車両生産の現地化が進む中で、再編を柱としたさらなる生産効率向上への取り組みを実施。
- LCV(小型商用車)の多様なニーズにフレキシブルに対応する生産の確立
- グローバル日産での工場別ランキングで上位の継続とプラントオブザイヤー受賞(2012年,2013年)
- 商用車NV150 ADのビッグマイナーチェンジ実現(安全装備:自動ブレーキを搭載)

[3] LCV海外展開事業の基盤を強化する

- 海外拠点開発・生産プロジェクトの準備業務を積極的に拡大
- 教育と実践の両面から海外サポート対応力の強化に取り組み、海外プロジェクトを遂行する体制を確立、LCVグローバル技術センターの開設、海外拠点への品質・原価の改善支援

[4] 生産台数と売上を積極的に拡大する

- お客様との直接対話を軸に、市場調査に基づくタイムリーな製品企画、迅速な商品化と積極的な販売支援で独自の活動を推進
- パトロールピックアップの商品力大幅向上により生産台数の増加に貢献、コンバージョン売上をおよそ4倍に拡大

2016年度 通期決算

決算サマリー



売上台数における乗用車の増加が大きく貢献し、増収増益となる

売上台数

昨年6月に生産を開始した北米向け「アルマーダ」の増加により、7.8%増の23.0万台

売上高

売上台数の増加により11.1%増の5,658億円

営業利益

台数増、合理化等により6.2%増の121億円

親会社株主に帰属 する当期純利益

退職特別加算金の計上、平成28年度税制改正の影響などにより、3.6%増の82億円

設備投資

マイナーチェンジによる商品力強化、生産設備の合理化及び改善などの投資を中心に約97億円

2016年度 通期決算

業績ハイライト

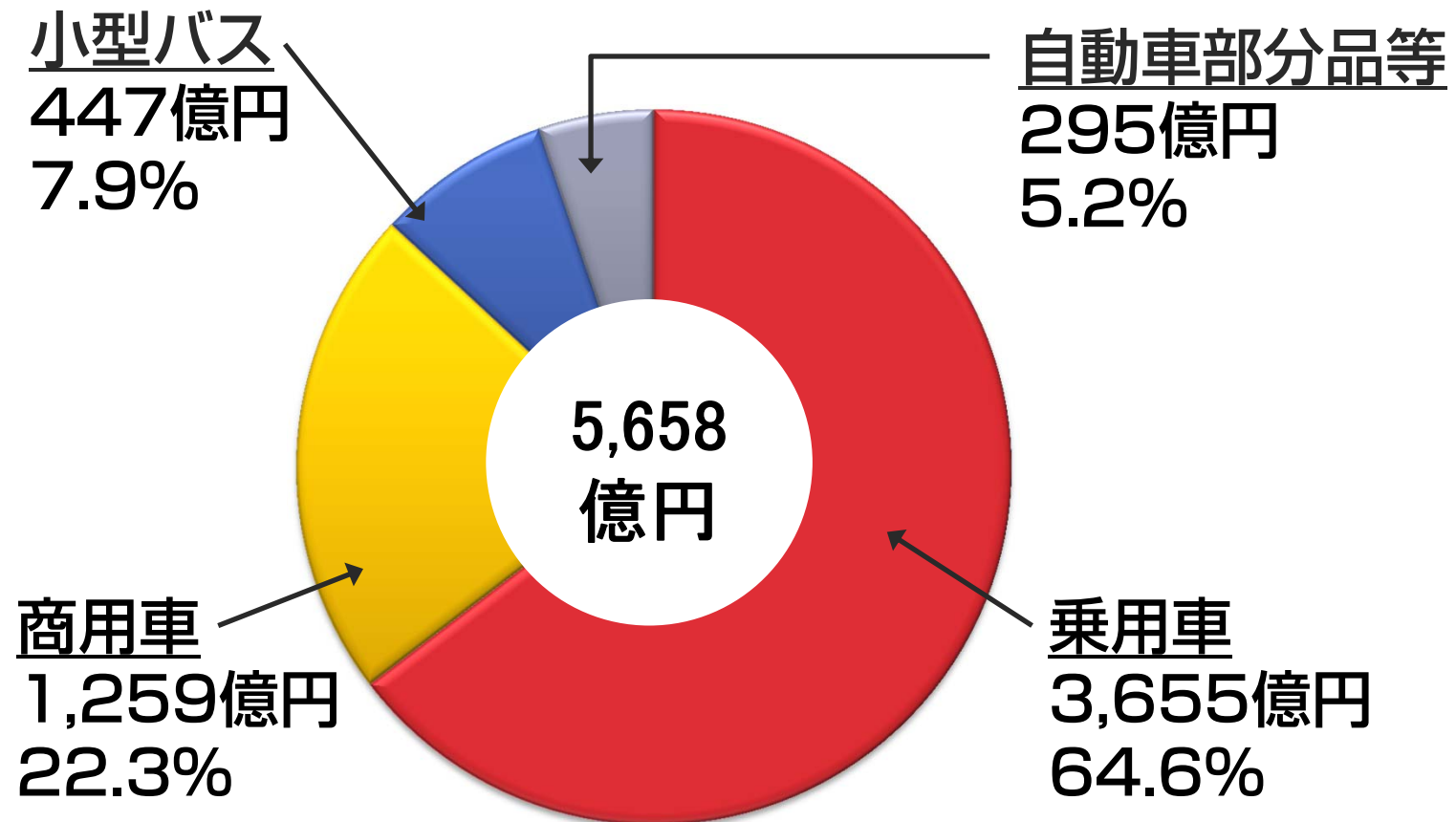


	2015年度 (2016/3)	2016年度 (2017/3)	増減額	増減率
売上高	5,094	5,658	564	11.1%
営業利益	114	121	7	6.2%
経常利益	119	127	7	6.2%
親会社株主に帰属 する当期純利益	79	82	2	3.6%
売上台数(千台)	214	230	17	7.8%

単位: 億円

2016年度 通期決算

品目別売上高構成比

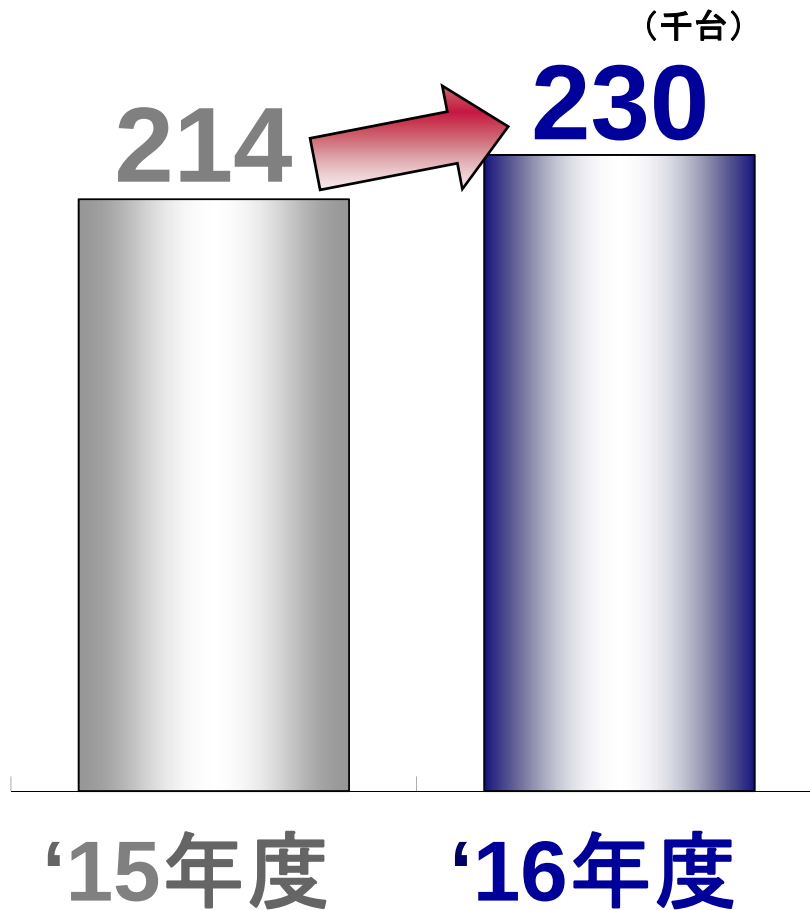


2016年度 通期決算

売上台数



売上台数は前期比7.8%増の230千台



(千台)

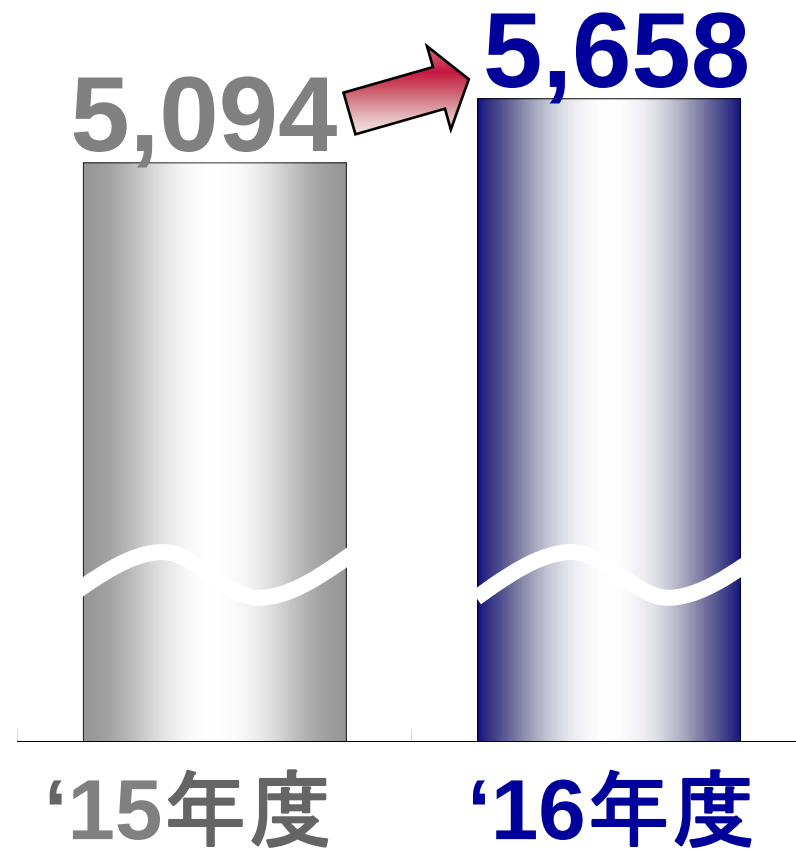
	前期実績	当期実績	増減率
乗用車	103	120	17.2%
商用車	86	87	0.7%
小型バス	25	23	▲6.3%
合計	214	230	7.8%

2016年度 通期決算

売上高

売上高は前年同期比11.1%増の5,658億円

(億円)



ARMADA
アルマーダ



PATROL
パトロール:Y62



Infiniti QX80
インフィニティ QX80

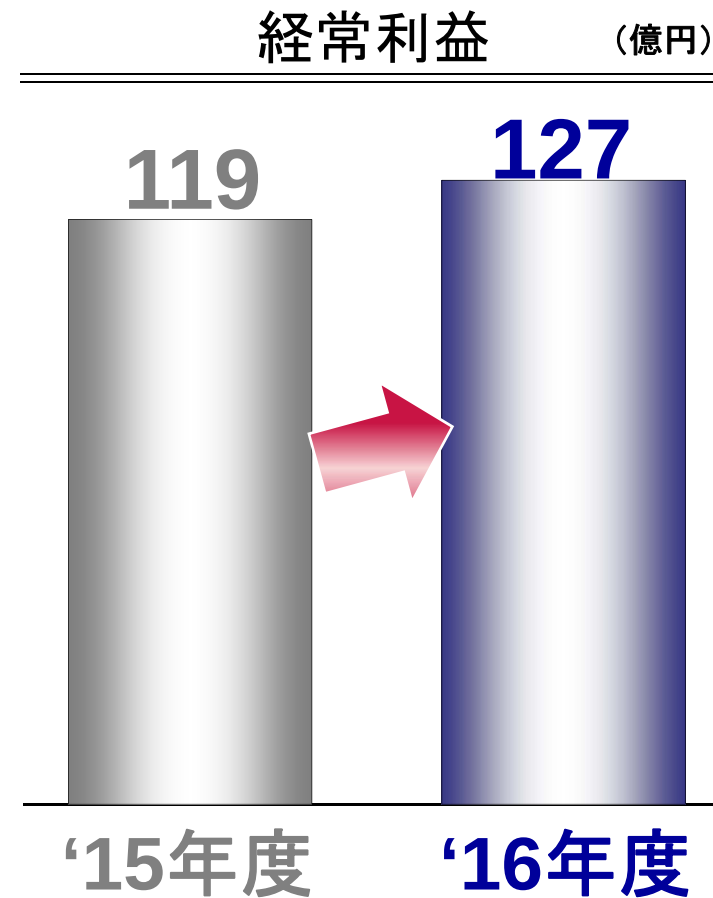
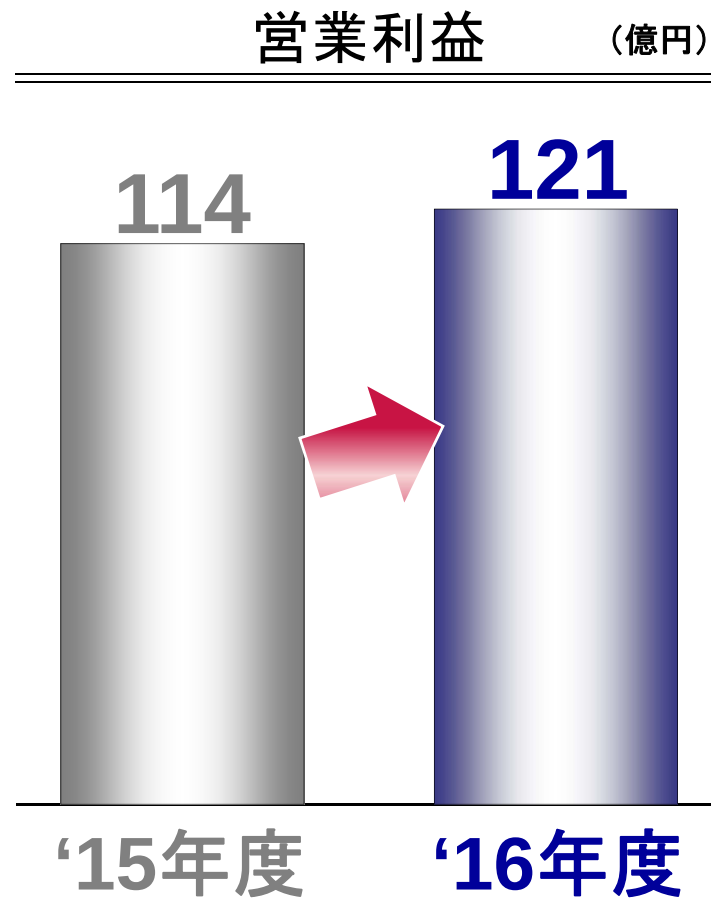


2016年度 通期決算

営業利益／経常利益

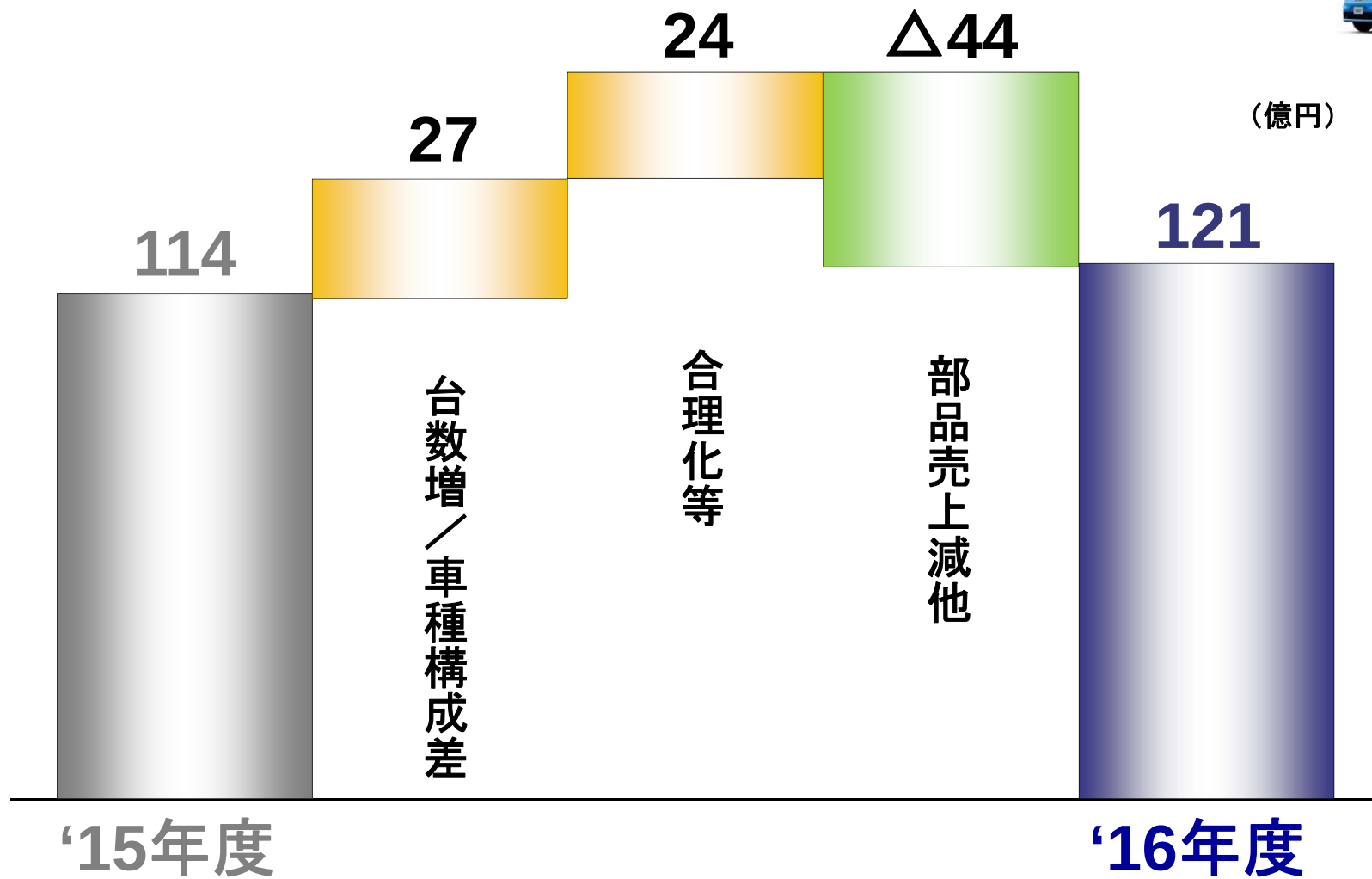


営業利益／経常利益とも前年同期を上回る



201年度 通期決算

営業利益の増減要因

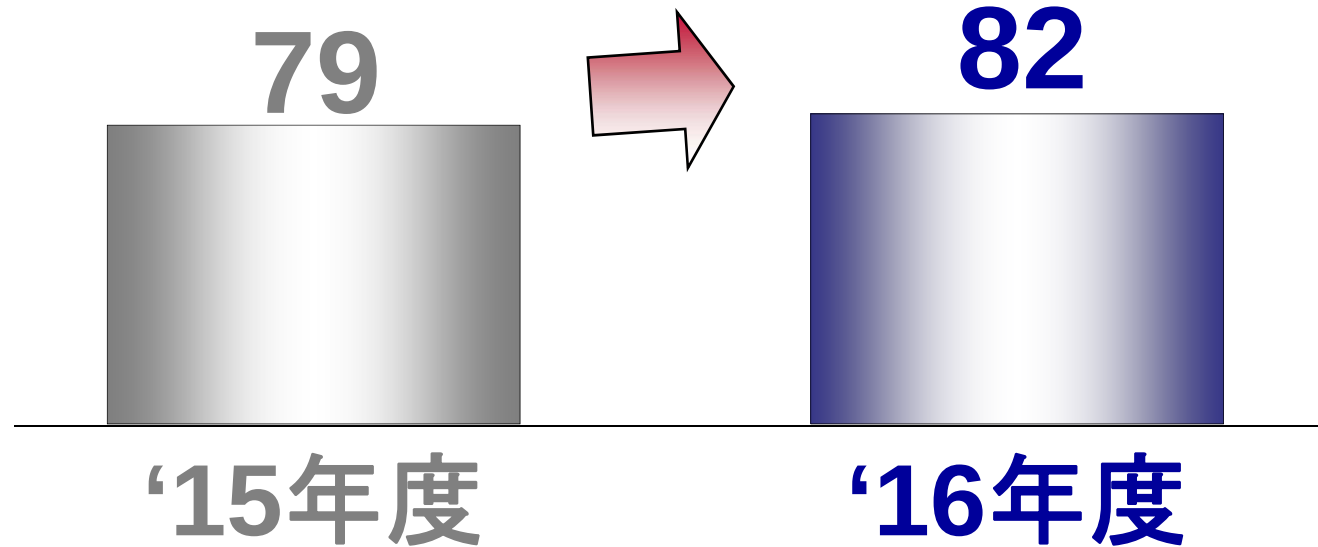


2016年度 通期決算

親会社株主に帰属する当期純利益

親会社株主に帰属する当期純利益は前期比3.6%増の82億円

(億円)



2017年度 連結業績見通し

2017年度 業績見通し

2017年度以降の主な取り組み



＜自動車業界の環境変化＞

- 拡大する海外生産と横ばいが続く国内生産
- 安全、環境、利便性などの技術革新の加速

＜主な取り組み概要＞

次期中期経営計画基本方針

LCV・Frame車※を技術力の核とし、
高品質で魅力ある商品をお客さまにお届けすることで、
将来にわたる強靱な企業基盤を確立する。

※Frame車:トラックやバスに採用される頑丈な梯子フレームにパワートレインなど走行機能搭載し、その上にキャビンを搭載する構造の車
当社製品:大型SUVのパトロール、インフィニティQX80,小型トラックのパトロールピックアップ、アトラスF24、マイクロバスのシビリアン

3つの柱となる競争力の強化

- | | |
|--------------|---------------------------|
| 1. 商品の競争力 | 魅力ある商品による生産台数と売上の拡大 |
| 2. 工場の競争力 | 品質No1,お客様から信頼される工場 |
| 3. 技術・技能の競争力 | LCV・Frame車のモノづくりグローバル技術拠点 |

2017年度 業績見通し

2017年度の業績予想



為替相場や株価の変動、中国を始めとするアジア新興国の景気下振れなど不透明ではあるが、増収増益を計画

	2016年度 (実績)	2017年度 (計画)	増減額	増減率
売上高	5,658	6,700	1,041	18.4%
営業利益	121	140	18	14.8%
経常利益	127	145	17	14.1%
親会社株主に帰属 する当期純利益	82	96	13	16.7%

単位:億円

株主還元

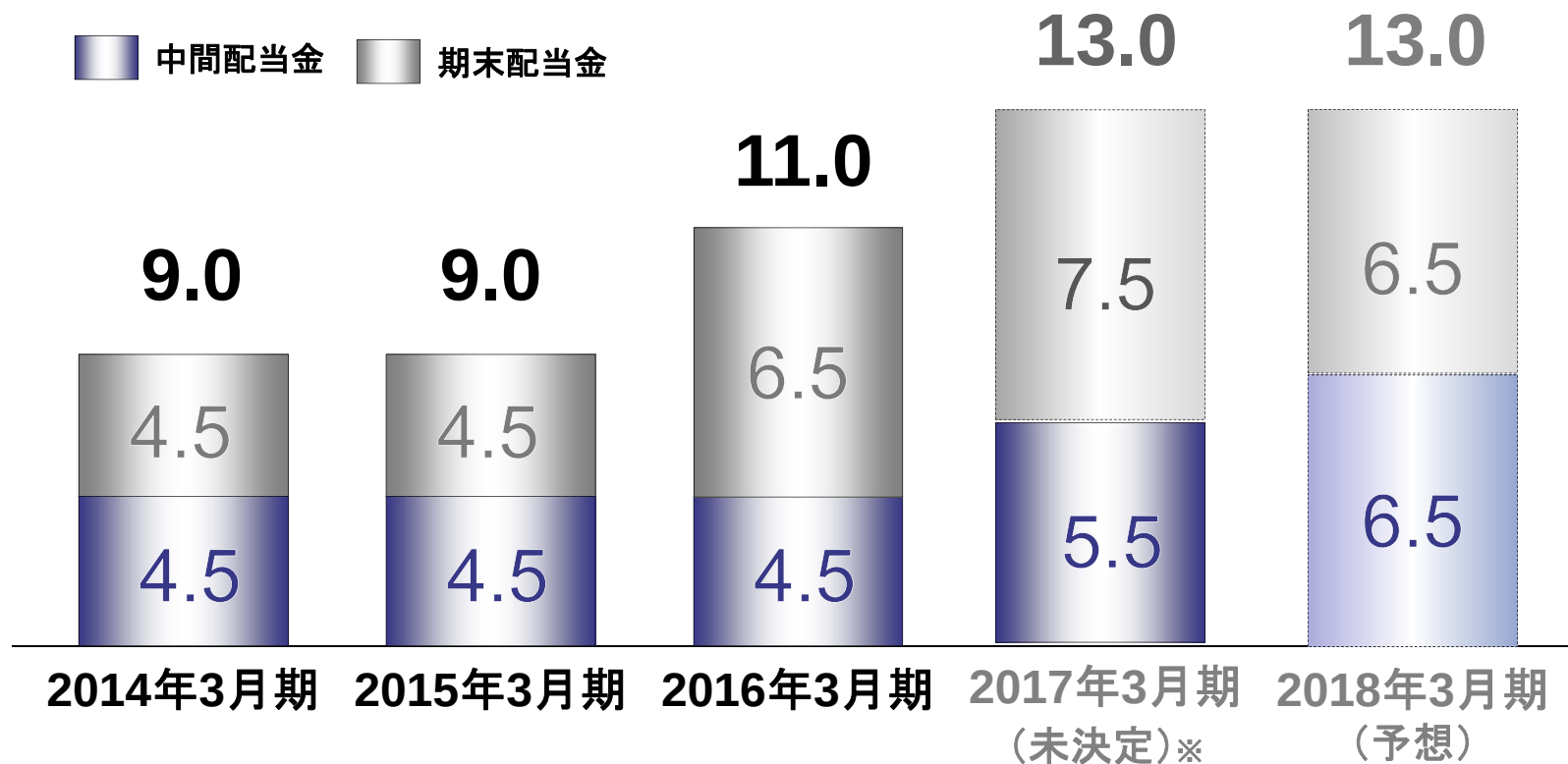
株主還元

配当金



持続的成長に向け、継続的な安定配当を実施

■ 中間配当金 ■ 期末配当金



※ 2017年3月期期末の1株当たり配当金は、2017年5月11日発表の決算短信に記載されている金額で、2017年6月28日開催の第94回定時株主総会で正式に決定されます。